テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.35)　蛮族ストーリー

イクサル編　その2

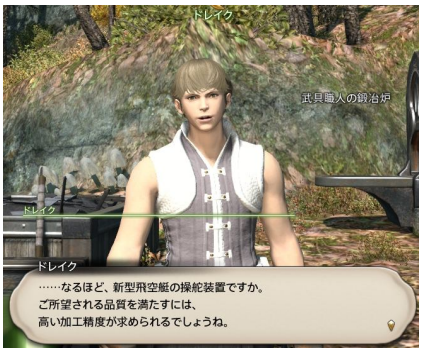
父、来る　～　翼を広げ、何よりも高く

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

父、来る

タタラム ： こんにちは、◇◇◇さん。機関部の登載も終わり、「デズル・クワラン号」の開発も、いよいよ佳境に入ってきました！
もう少し、あと、もう少しで、僕たちの夢、高々度飛空艇が完成します！　これはまさに、エオルゼアの歴史に残る偉業ですよ！
そこで◇◇◇さん、お願いです。この実験場の先にある「ハーストミル」という集落に、
「ゲロルト」という武具職人がいるのを知っていますか？
「デズル・クワラン号」の操舵装置を完成させるのに、「伝説」とまで言われた、彼の加工技術が必要なのです！
その下準備として、あなたに、ある部材を作ってほしいんです！
どうか、この「操舵装置の材料」をもとに製作した、「エカトルの操舵装置部材HQ」をゲロルトさんに届けてください。
よろしくお願いします！

ゲロルト ： なンの用だ？　また妙なジジイでもやってきたのか？　悪いが、厄介事はご免だぜ？
こっちは頭がガンガン……いや、仕事で忙しいンだよ！



ドレイク ： ……あっ、冒険者さん、すみません。お師匠様は、二日酔いが酷いようでして……。
ええっと、どんな大きさのヤカンを御所望ですか？　……えっ？　ヤカンの注文じゃない？　それは失礼いたしました。
用件でしたら、弟子である私が伺いましょう。再度、お声がけ願えますか？

ドレイク ： それでは、改めましてお仕事のお話しを……。どういった依頼でしょうか？
……なるほど、新型飛空艇の操舵装置ですか。ご所望される品質を満たすには、高い加工精度が求められるでしょうね。
お師匠様は武具製作が本業ですが、大胆かつ繊細な仕事ぶりは、伝説と謳われるほど。
必ずや、最高の操舵装置を仕上げることができるでしょう。
……ですが、見てのとおり、お師匠様は気難しい御仁。借金取りでもないかぎり、働かせるのは至難の業です……。
見たところ、あなたもかなり腕の立つ職人の様子。まずは予定どおり、あなたが持ち込まれた材料の一部を使って、
操舵装置の部材……操舵輪を、最高の技術で作ってください。
目の前で作られた、高品質な部材を4つばかり突きつければ、お師匠様の職人魂に火が付くかもしれません。
そうすれば、きっと仕事を引き受けてくださるでしょう！
それでは「操舵装置部材の材料」をお返しします。施設はこの場所を使うといいでしょう。
さぁ、存分に腕を振るってください！

ゲロルト ： ふぅ……ようやく頭痛が治まってきやがったか……　あぁン？　まだいたのか、この野郎ォ！　何だってンだ、チクショーめ！
なンだ、こりゃ……。おい、コイツはテメェが作ったのか？　ほぉ～、意外なことしてくれンじゃねぇか。
まさかテメェが、いっぱしの職人だったとはなぁ……。……なるほど、その腕前をもってしても作ることができず、
このオレに頭下げて頼みてぇ仕事があるンだな？
……その「操舵装置」とやらを、テメェの作った部材を使って、武具職人であるオレに作れと？
わかったよ……。テメェの腕と心意気に免じて、この仕事を請けてやンよ。……だが、少し時間をくれや。
ちっとばかし本気を出さなきゃなンねぇ、代物らしい。……ちゃんと酒抜いてから作業しねぇとな。
完成したブツは、届けっからよ。

タタラム ： ◇◇◇さん、良かった！……グロルトさんは、依頼を請けてくれたんですね？
こでれ「デズル・クワラン号」操縦系統は完成です！
あっ……あれはっ……！？

訓練された傭兵 ： 総員攻撃準備完了！　いつでも突入できます！

訓練された傭兵 ： ウム、鳥野郎を一匹も逃がすな。

セズル・トトロック ： なんだッァ！？　なんだッてんだッァ！？　オメェらはよッォ！
おれ様ッの、大事な大事な実験場にッィ！　土足で入ってきてんじゃねぇぞッォ！！

訓練された傭兵 ： だまれ、蛮族め！　タタラム坊ちゃんを拉致して、何を企んでる！？

セズル・トトロック ： あぁッン、拉致だとッォ？　何言ッてんだッァ！？　頭沸いてんのか、テメェらッァ！

タタラム ： こんなとこまで乗り込んでくるなんて……。僕に構わないでくれと、何度も言ったでしょうっ！

？？？？ ： あまり我侭を言うんじゃない、タタラム！

タタラム ： と、父さん……！？

セズル・トトロック ： 父さんだとッォ！？　じゃ、アンタ、ハイウィンドなんちゃらッつー　人の会社のシャッチョーさんかッァ！？

タタバル ： ここが、飛空艇船渠だと？　なんて劣悪な環境だ……ロクな設備も資材もない。
……まるで、廃棄物を集積するゴミ溜のようじゃないか。
タタラム、お前はいったい何がしたい？　飛空艇をいじりたいなら、社の工房を使えばいいだろう？
ガーロンド・アイアンワークス製の飛空艇を用意してやるぞ？

タタラム ： 違う！　そうじゃない！　僕たちの目的は、そんな低い空を飛ぶことじゃないんだ！　わかってくれよ、父さん！

セズル・トトロック ： オウオウオーウ、オッサンよッゥ！　いきなり何だッァ！？　チョーシこいてっと、尻の穴に青燐水流しこむぞッォ？
ああ～ッン！？

タタバル ： ……なんと下等で下劣な連中だ。タタラム、お前はこいつらに騙されているんだ。
鳥ほどの能しかない蛮族が、本当に飛空艇を造れるとでも？

タタラム ： 僕を騙してきたのは、父さんの方だ！　僕たちが空を飛べるのは、イクサル族のおかげなんだよ！？
父さんこそ、どうして、その事実を隠そうとするんだ！？
会社にイメージがつくのを恐れているから？　獣人に学ぶなんて、人としてのプライドが許さないから？
父さんは、なにもわかっちゃいない！
そんな重たい荷物なんか背負ってたら、飛べないんだ！　体を軽くして、向かい風に翼を広げなくちゃ……！
僕らの目指す高みには、届かないんだよ！

タタバル ： タタラム……いい加減にしろ……！　子どものお前に何がわかる……！？
これ以上、我侭を言うようなら、容赦はしないぞ……！

タタバルの専属秘書 ： タタバル社長、そろそろお時間です。リムサ・ロミンサで大事な商談が二件……。
その後、財務長官とコーラルタワーで会食が……。

タタバル ： わかっている……すぐに向かう。
……つれていけ。抵抗するなら多少、手荒なマネも許そう。しつけの一環だ。

タタラム ： 父さんっ！　待ってよ！　頼むから、僕の話を……聞いてくれよっ……！！

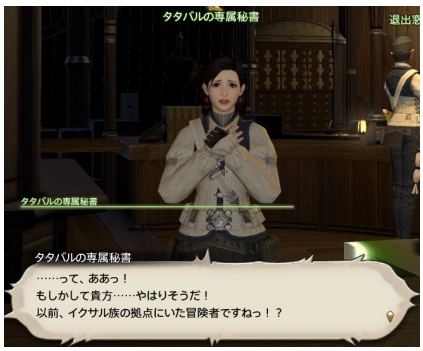
セズル・トトロック ： テメッェ！　ソイツに何かあってみろッォ！　タダじゃ済まねぇからなッァ！
毛ぇむしって、串刺しにして丸焼きにすんぞッォ！

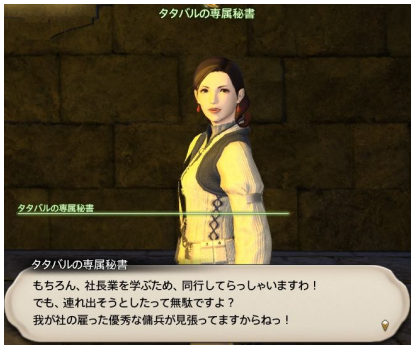
セズル・トトロック ： チックショッォ！　なんてこったッァ！　小僧がいなくなっちまったらッァ、誰が図面の調整をするってんだよッォ！？
やっぱり、ヒトってのは、ムカつくぜッェー！！　オレたちの気球をパクリやがったくせにッィ、
この空をッォ、ワガモノ顔で飛びやがるッゥ！
……とにかくッゥ、小僧がいなくなっちまった以上ッォ、「デズル・クワラン号」の最終組立は中断ッン！
飛行実験は無期限延期だッァ！
小僧が戻るまで、部材の確保だけは進めるぞッォー！　それにしても、あのクソシャッチョーめッェ！
今度会ったら、ボコボコのフクロにしてやっからなッァ！！

銀嶺高き、夢遠く

セズル・トトロック ： オウ……姐ちゃんかッァ。なんつーかッァ、小僧がいねぇと、チョーシ狂っちまうぜッェ。ったくよッォ……。
飛空艇の最終組立が頓挫してッェ、お先真っ暗よッォ……。オレたち、なんだかんだでッェ、
あの小僧にいろいろ頼ってたんだなッァ……。
いなくなって、初めてわかったぜッェ……。アイツは、この「エカトル空力団」にッィ……
なくてはならないヤツなんだってなッァ……！
なぁ……「ぐりだにあ・らんでぃんぐ」ってトコに行けば、小僧を拉致した会社の社員が、一人ぐれぇはいんだろッォ？
姐ちゃんに直談判に行ってきてくれねぇかッァ！？
でよッォ！　ギャーギャーわめくようならッァ、力ずくでも、連れ戻してやるのさッァ！
小僧だって、オレたちの元に戻ることを望んでるはずだッァ！
げひゃひゃ……こんなに真面目に頭下げたのはッァ、生まれて初めてだぜッェ……。小僧を頼んだぜッェ……姐ちゃんよッォ……。

タタバルの専属秘書 ： なんですか、貴方は？　私に何か用ですか？　……困りますね、商談や面談をしたいのであれば、
事前に社の代表宛に約束をとりつけていただかないと……。
えっ？　タタラムはどこにいるかって？　……社長ご令息のタタラム様のことですか？
……失礼ながら、貴方のような一介の冒険者風情が、どうして、タタラム様とお知り合いなのでしょうか？
……って、ああっ！　もしかして貴方……やはりそうだ！　以前、イクサル族の拠点にいた冒険者ですねっ！？
イクサル族に加担して、タタラム様を誘拐した不埒な輩！　ふんっ！　貴方に伝える情報は何もありません！
帰ってください！　しっしっしっ！
私はこれより、タタバル社長に伴い、クルザス中央高地の「アドネール占星台」へ、大切な商談に赴くところでなんですからねっ！





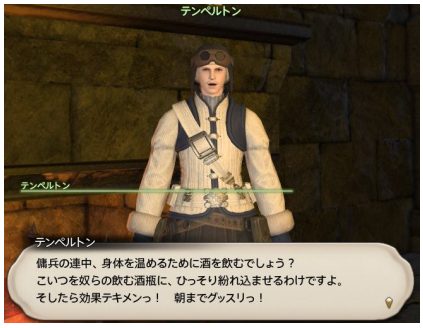
タタバルの専属秘書 ： ああっ、貴方っ！　こんなところまで追っかけてくるなんて……　まったく……執念深い人ですねっ！
しっ！　今、社長は大事な商談の最中なのです！　バタバタ走り回って、邪魔をしないでください！
……えっ？　タタラム様の居場所はどこか、ですって？
もちろん、社長業を学ぶため、同行してらっしゃいますわ！　でも、連れ出そうとしたって無駄ですよ？
我が社の雇った優秀な傭兵が見張ってますからねっ！

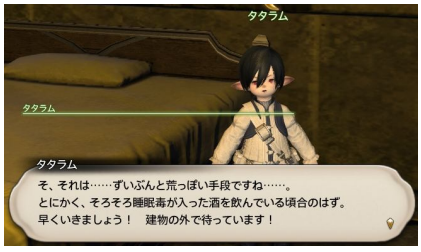
タタバル ： クルザス上空航路の利用において、ここ「アドネール占星台」の担う役割は大きい。
ボルトゥレーン殿とデュランデル家の方々には、是非とも我が事業への積極的な参画を期待したい！

ボルトゥレーン ： タタバル社長の申し出、まことに興味深い。確かにクルザスの空を見守る占星台の役割は、果てしなく大きいと言えるからな。

タタラム ： ……あっ！　◇◇◇さんっ！？　どうしてここへ……！？　僕を追いかけてきたんですかっ！？
そうですか……セズルさんが……。ありがとうございます……グスッ……　僕を必要としてくれる人がいるなんて……感動です……！
でも、すみません……。せっかく連れ戻しにきていただいたのに、どうやら、ここを脱出することは難しいようです。
父さんからは、社長の仕事をよく学べと言われましたが、……なんてことはない。単に僕が逃げないように、拘束してるだけなんだ！
今だって、この部屋からは一歩も出られない軟禁状態。隣の部屋にいる屈強な傭兵を見たでしょう？
逃げ出そうしたら、すぐさまあいつらが飛んできますよ。
なんとか、この軟禁部屋を抜け出す、いい方法はないでしょうか……。
……そうだ！　このアドネール占星台の「出張所」に勤めている、「テンペルトン」さんに相談していただけますか？
彼は以前、僕たちの部材製作にも協力してくれたし、敵ばかりの「ハイウィンド飛空社」の中で、
数少ない味方になってくれる存在だと思います！

テンペルトン ： ああ、冒険者さん、こんにちはっ！　今日はどういった物品を製作するんです？
……え？　タタラムさんを軟禁部屋から連れ出す方法？
ふふふ……そーいうことならっ！　これですっ！　私も時々使うんですがね、人の目をごまかしたい時は、
この「睡眠毒入りの酒瓶」にかぎりますっ！
傭兵の連中、身体を温めるために酒を飲むでしょう？　こいつを奴らの飲む酒瓶に、ひっそり紛れ込ませるわけですよ。
そしたら効果テキメンっ！　朝までグッスリっ！
くふふふ……次期社長のタタラムさんに恩を売れば、私の出世は約束されたも同然っ！　いざ、本社へと捲土重来っ！





タタラム ： ◇◇◇さん！　どうでした！？　テンペルトンさんに、何かお知恵を借りることができましたか？　……ええっ！　す、睡眠毒！？
そ、それは……ずいぶんと荒っぽい手段ですね……。とにかく、そろそろ睡眠毒が入った酒を飲んでいる頃合のはず。
早くいきましょう！　建物の外で待っています！

タタラム ： お待ちしてました、上手く抜けだせましたね！　さぁ、父さんの商談が終わる前に……実験場に帰りましょう！

コルソン ： お待ちなされ、タタラム坊っちゃん。

タタラム ： コルソンのじっちゃん……！　な、なんでここに……！？

コルソン ： 坊っちゃん……。こんなことをして、どうなるかわかっとるのですか？　今すぐ、社長の元にお戻りなされ！

タタラム ： じっちゃん……失望したよ……。……じっちゃんだけは僕の味方だと思ってたのに……。

コルソン ： 坊っちゃん……社長の……お父様の心中もお察しなされ。あなたは、「ハイウィンド飛空社」の将来を担う跡継ぎ。
私たち市井の庶民とは、生きる世界が違うのですぞ？
民は民、王は王……　人というものは、己が持って生まれた天命に従い、その責務を全うするのが、すなわち人生というもの。

タタラム ： でも、僕は王子なんかじゃない！　ただの航空会社の小倅だっ！
「ハイウィンド飛空社」が、なんだっていうんだ！？　たかが50年程前に、イクサル族の気球を真似て、
空に飛び上がっただけの集団じゃないか！？
会社の面子なんて、僕にとって何の価値もないっ！　……低い……低すぎるよ！　みんな、なんて低い空を飛んでるんだっ！？
セズルさんたち、「エカトル空力団」のイクサル族は、もっと高い空を飛んでいる！　果てしない夢を追いかけているんだ！
亡くした翼を取り戻す……僕はただ、その手助けをしたいだけ！　そして彼らと同じ夢を見て、同じ空を飛びたい……！
……ただ……それだけなんだ……。

コルソン ： ……タタラム坊っちゃん、行きなされ。
タタバル社長には、私が直々に言ってきかせましょう。坊っちゃんの熱意、必ずや社長にお伝えいたしますぞ。

タタラム ： じっちゃん……！

コルソン ： おみそれいたしましたぞ、坊っちゃん。坊っちゃんのその熱いまなざし……　このコルソン爺、数十年前に見たことがありますじゃ。
その瞳の輝き……坊っちゃんのお祖父様、ともに空を目指した頃のタタノラさんと瓜二つ……。

タタラム ： じっちゃん、ありがとう……。

コルソン ： 早よぅ行きなされ……私はここで失礼しますぞ。雪の中で長話して、いささか腰が冷えましたわい。
年はとりたくないですのぅ……ほっほっほ。

タタラム ： 帰りましょう、◇◇◇さん。セズルさんたちが、首を長くして待ってますよ……！

タタラム ： セズルさん……っ！　心配……お掛けしました。ただいま……帰ってきましたっ！

セズル・トトロック ： ……。

タタラム ： ……セズルさん？

セズル・トトロック ： ……。
……ッキショウオオオオオオッオ！！　突然ゴーグルが曇ってきやがったぜ、この野郎ッォ！
小僧の帰りが嬉しくて泣いてんじゃねぇからなッァ！
いいかッァ、小僧ッォ！　今までの遅れを取り返すぞッォ！　「デズル・クワラン号」完成まで、もう一歩ッォ！！
血のションベン漏らすまで働かせっから、覚悟しろッォ！！

タタラム　：　はいっ！！

？？？？　：　見ぃ～つけたッァ！　見つけたぞッォ！？　なんだここはッァ？
こんなとこに、でっけぇクソの山があんじゃねぇかッァ！

セズル・トトロック　：　んなッァ！？　オ、オメェらはッァ……！？

イクサル族の群長　：　森の中をッォ、コソコソ動き回ってると思ってたらッァ……　こんなとこで、こんなモンを作ってたのかッァ……！
ヒトに尾羽根フリフリッィ……シコシコ気球造りかよッォ！　一族とガルーダ様に対するッウ、重大な背信行為ッィ！
こりゃ、メチャ許せねーよなッァ……！

イクサル族の兵たち　：　ブッ・コ・ワ・セッェ！　ブッ・コ・ワ・セッェ！！

イクサル族の群長　：　ヤロウどもッォ！　一旦、引きあげるゾッォ！　ナタラン入植地の仲間にッィ、報告だッァ！　ギャヒッィー！

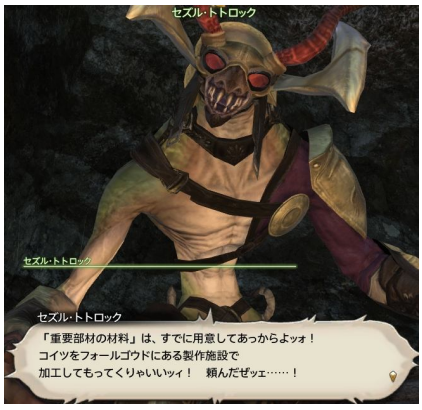
イクサル族の兵たち　：　ミ・ナ・ゴ・ロ・シッィ！　ミ・ナ・ゴ・ロ・シッィ！！

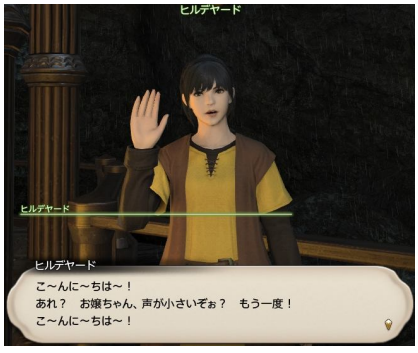
タタラム　：　セ、セズルさん……っ！

セズル・トトロック　：　……ついに見つかっちまったかッァ。いずれこうなることは、うすうす予想していたがッァ……。
チキショウッォ！　時期が悪りッィ……　せめてあと少しッィ……。「デズル・クワラン号」の完成が間に合えばッァ……！

翼を広げ、何よりも高く

セズル・トトロック　：　聞けッェ！　今日は記念すべき日だッァ！　……ついにッィ……ついにッィ……！
「デズル・クワラン号」が完成するッウウウウウウウ！！　喜べッェ！　喜び過ぎてションベン漏らせッェ！！
げひゃひゃひゃひゃはッァ！！
あとは、重要部材をブッ込んで、仕上げるのみッィ！　それが終わればッァ、コイツはついに、空へと舞い上がるッウ！
ナタランのバカどもが手を打つ前になッァ！
そこで姐ちゃん、頼みがあるッウ！　高品質の「エカトルの重要部材HQ」を作って持ってこいッィ！
これが姐ちゃんの、最後の仕事だッァ！
「重要部材の材料」は、すでに用意してあっからよッォ！　加工してもってくりゃいいッィ！　頼んだぜッェ……！





ヒルデヤード ： こ～んに～ちは～！　あれ？　お嬢ちゃん、声が小さいぞぉ？　もう一度！　こ～んに～ちは～！
ふむふむ、今日のお題は重要部材を作ることね？　……こっ、これはなかなか難易度が高そうな物品よ？
諦めず、最後までできるかな？
それじゃ、材料を返すわね？　気合いをいれて！　がんばってっ！

セズル・トトロック ： オウオウ、姐ちゃんッン！　例のブツは手に入ったかッァ！？　早くしろッォ！
よぉしよしッィ！　確かに「エカトルの重要部材HQ」ッイ！　ついにッイ……ついにッイ……
「デズル・クワラン号」が完成だぜッェー！！

エカトル空力団団員 ： お、お、親方ッァ！！　セズルの親方ッァー！　た、大変っスッゥー！！

セズル・トトロック ： オウオウオウッゥ、どうしたッァ！？

エカトル空力団団員 ： ナタランに潜入中の仲間から、緊急連絡っスッゥ！　ヤツら……停泊している装甲気球部隊にッィ、
「風生みの珠」の装填を開始したらしいっスッゥ！

タタラム ： な、なんだって！？　装甲気球部隊！？　「風生みの珠」の装填って……どういうことですかっ！？

セズル・トトロック ： 「風生みの珠」は、嵐神の魔力を封じた宝珠だッァ　イクサル族の気球は、その珠が産む風で推力を得るッゥ！！
つまり、出撃準備開始ってこったッァ！

エカトル空力団団員 ： セズルの親方ッァ！　装甲気球部隊の狙いは、この実験場っスッゥ！
ヤツら、「デズル・クワラン号」を破壊するつもりっスッゥ！

セズル・トトロック ： ちッィ！　ナタランのバカどもめッェ！　オレたちがガルーダに従わないからって、破壊命令かよッォ！
なんつー心の狭めッェ！　心底腐ってやがるぜッェ！

タタラム ： どうしよう……この実験場は完全に無防備……。それに僕たちは職人ばかりで、戦闘経験もありません！
上空から狙われたら、ひとたまりもないですよ！

エカトル空力団団員 ： お、親方ッァ！　ど、どうすればいいんスかッァ！？　せっかく完成した「デズル・クワラン号」がッァ……！
オレたちの夢がッァ、水の泡っスッゥゥゥ！！

セズル・トトロック ： 慌てんじゃねッェ！　ダボがッァ！　オレの命に代えても、そんなことはゼッテーにさせねッェ！
ヤツらの装甲気球部隊の出撃を阻止すんだよッゥ！
姐ちゃんッン！　悪りぃが、「最後の仕事」が追加されちまったぜッェ。
戦いにも長けた姐ちゃんにしかできねェ、大仕事だッァ……。
敵地に乗りこみ、装甲気球の出撃を阻止してほしいッィ！　空を飛ばれちまったら、手を出せねぇがッァ、
出撃前の今なら、まだ間に合うッゥ！
場所は、クルザス中央高地の「ナタラン入植地」ッィ。まずは、潜入中の「隠密のツザル・トルタン」と連絡をとれッェ！
……そして、出撃阻止の方法を相談するんだッァ！
敵さんのことは姐ちゃんに任せてッェ、オメェらは、初飛行実験の準備を続けてろッォ！
オタオタしねぇで、今、できる仕事をしやがれッェ！

隠密のツザル・トルタン ： エカトル実験場からの増援っつーのはアンタかッァ……。シッ！　物音を立てるなッァ！
ここのイクサル族は血の気が多い、見つかったらコトだぜッェ！
幸い、まだ装甲気球部隊は出撃していねッェ。……だが、すでに気球を浮かすガスの注入は完了済みッィ！
今は、推進力を得る「風生みの珠」を用意してるところだッァ！
「風生みの珠」は「嵐神の木塔」っつー装置を通じて、風の魔力を注ぎ込んでいるッゥ！
こいつが満タンになったら、気球に搭載して出撃開始だッァ……。
いいか、ねぇちゃん、オレたちがやることはひとつだけッェ！　「嵐神の木塔」の機能を停止させるんだッァ！
そうすりゃ気球の出撃は、水際で阻止できるッゥ！
妨害工作には、この「偏属性クリスタル片」を使うッゥ！　風属性を土属性に変換する作用を利用してッェ、
「嵐神の木塔」から風の魔力を消しちまうんだッァ！
だが、いきなり「嵐神の木塔」を狙ってもムダだッァ！　まずは周辺に配置された随伴装置……　「嵐神の小塔」を停止させろッォ！
ホラ見てみろッォ！　キラキラ光ってるブツがあるだろッォ？　コレが「嵐神の小塔」だッァ！
試しに、この「偏属性クリスタル片」を使ってみろッォ！

隠密のツザル・トルタン ： よぉしよしよしよしィッ！　要領はわかったなッァ？　じゃあ、いよいよこれからが本番だぜッェ！？
入植地内に、コイツと同じ「嵐神の小塔」が2基あるはずだッァ！　まずはソレらを停止させるッゥ！
そして、仕上げに「嵐神の木塔」を止めるんだッァ！
コイツが止まれば、作戦成功よッォ！！　あとは実験場に戻って、初飛行実験に挑むだけだッァ！！
さッァ、最後のひと仕事、いくぜッェ！！

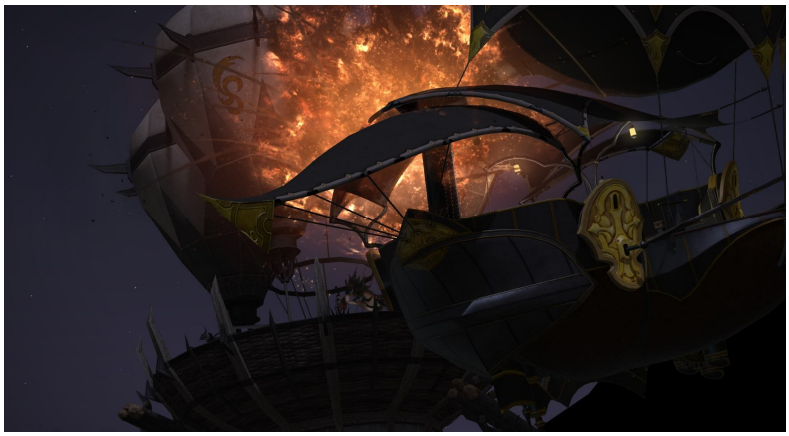
隠密のツザル・トルタン ： よおっしゃあああッァ！！　やったぜ、ねぇちゃんッン！　ヒトのクセに、やるじゃねぇかよッォ！！　見事に作戦成功だぜッェ！
オレは一旦、実験場に帰って、セズルの親方に報告するッゥ！　アンタはここで引き続き、ナタラン入植地の動向を監視してくれッェ！
そうだッァ、アンタ、ヒトなんだったらッァ、この近くの「アドネール占星台」のテッペンに張り付けよッォ。
あそこなら、クルザスも黒衣森も一度に監視できるぜッェ！
ねぇちゃんの応援に、実験場から、もうじきあのララフェル族の小僧も来るんだとよッォ。
ふたりで仲良く見張りの引き継ぎ、頼んだぜッェ！

タタラム ： 冒険者さん、待ってましたよ！　た、大変です……！
ナタラン入植地に、まだ「嵐神の木塔」が残っていたんです！　奴ら、襲撃を予期して、1基ほど渓谷に隠していたらしく……。
とにかく、上から様子を見てみましょう！
「風生みの珠」の充填が完了した気球は1機のみですが、エカトル実験場に対空防御兵器はありません……
空襲を受けたら、ひとたまりもない……！
あっ！　あれはっ！
やっぱり南に……黒衣森に向かっている……！
くそっ……やっとここまで来たのに……　僕たちにできることは……もう何もないのか……。
こんなことって……こんなことってっ……！

イクサル族の群長 ： ギャハーッァ！　進め、進めッェ！　ヤツらの実験場を空襲してやれッェ！
ウゼェ飛空艇とやらを、バラバラの木片にしてやらッァー！！

イクサル族の気球兵 ： オ、オヤブンッン！　アレ、なんだッァー！？

タタラム ： どうしました……？
あ、あれは……「ブラックジャック号」！？　父さんの船だっ！！
と、父さん！？　どうするつもりだっ！？



タタバル ： ……まったく。馬鹿な息子を持つと、命が幾つあっても足りないな。

タタラム ： やったぁっ！！

タタバル ： はっはっは、どうかね？　図らずも、ハイウィンド飛空社の飛空艇の安全性が証明されたじゃないか。

タタバルの専属秘書 ： し、社長っ！　む、無茶しないでください！　社長の身に何かあったら、ハイウィンド飛空社は、どうなると思っているんですかっ……！

タタバル ： 安心しろ、私には立派な後継者がいる。さて、それでは会いにいこうか。……その後継者に！

タタバルの専属秘書 ： ちょっ！　社長、予定はどうするんですかっ！？　今日はこれから、ウルダハにて砂蠍衆の面々と会談……
その後、コスタ・デル・ソルでゲゲルジュ様と……。

タタバル ： 無論、すべて取り止めだ。

タタバルの専属秘書 ： 社長ぉーっ！！

タタラム ： 何だ……？　発光信号？
イ・ク・サ・ル・ゾ・ク・ノ
キ・ョ・テ・ン・デ・マ・ッ・テ・イ・ル……
ハ・ヤ・ク・コ・イ……
バ・カ・ム・ス・コ……
……チ・チ
……ははは、リンクパールを使えばいいのに、わざわざ発光信号を使うだなんて、父さんらしいや。
帰りましょう……冒険者さん！

セズル・トトロック ： オメェらッァ！　やったじゃねぇかッァ！　ナタランにいるツザルの野郎から、話は聞いたぜッェ！
大迫力の空中戦だったらしいじゃねぇかッァ！

タタラム ： 父さん……。

タタバル ： ……コルソンに叱られたよ。ハハハ、この歳になって説教を食らうとは思わなかった。
イクサル族は、翼を失った種族だと聞いていた。もう一度、空を自由に飛びたい……
その目的のために、必死の思いで気球を造り上げた種族だと。
……だが、翼を失って飛べなくなった種族とは私たちの方だったのかもしれないな。
タタラム……。お前の顔を見て、久しく忘れていた言葉を思い出したよ。
「その翼を広げ、何よりも高く」……。わが父、創業者タタノラの残した我が社の社訓だ。

セズル・トトロック ： げひゃッ！　げひゃひゃひゃひゃはッァ！　「その翼を広げ、何よりも高く」だッァ……？　オメェら、マジ笑わせるぜッェ！

タタバル ： ……何がおかしいのかね？

セズル・トトロック ： げひゃひゃひゃひゃはッァ！　そいつは、オレの師匠……　デズル・クワランのジジイの口癖だったんだぜッェ！

タタラム ： ええっ！？　そ、そうだったんですかっ！？

タタバル ： セズル・トトロック氏、今までの非礼を詫びたい。そして、改めて認めよう……。
今日のハイウィンド飛空社があるのは、イクサル族のお陰だ。
私の父タタノラが、デズル・クワラン氏に師事した、その薫陶の賜物だ。……社を代表して、謝礼させていただこう。

セズル・トトロック ： げひゃーッァ！　やめてくれよッォ！　尻が痒くならッァ！
それに、シャッチョーさんよッォ。礼を言うのはオレたちの方だぜッェ。
アンタんとこのガキは、オレたちの「夢」を叶えてくれたッァ！　天の浮島「アヤトラン」を目指すという「夢」をなッァ……。
オゥ、小僧ッォ！　そろそろおっぱじめようかッァ！？　どーんと、でっけぇ夢の花火をよッォ！

タタラム ： はいっ……！
「デズル・クワラン号」初飛行実験を始動する……！　総員、準備点検っ！

タタバル ： 美しい船だ……。タタラムめ、いつの間に、こんな革新的な設計を着想していた。……親父の魂は、確かに孫に継がれていたんだな。
冒険者殿、すべては君のおかげだ。イクサル族と人……異なる種族をひとつの「夢」で結んだ、君の活躍があればこそ……だな。

セズル・トトロック ： 見てるかッァ？　ジジイ……。今から行っから、覚悟してろよッォ！
「その翼を広げ、何よりも高く」ッゥ……！！

タタバル ： 「夢」を見る者に、種族の別はない……か。大切なことを思い出させてくれたよ。君のおかげだ、礼を言う……ありがとう。
さて、私も少しご相伴にあずかろう。君たちの夢への一里塚、しかと見届けさせてもらうぞ。

タタバルの専属秘書 ： ううう……社長の予定が取り止めになって本部は大混乱です……。ええい、もうどうにでもなれっ！
とりあえず飛べっ、飛空艇っ！

タタラム ： ◇◇◇さん……　あなたには、何てお礼を言っていいか……。こうして夢を叶えられたのも、あなたのおかげです。
……はい、まだ終わってはいないですよね。まだ実験が成功したわけじゃない……。
最後まで気を引き締めて、初飛行に臨まないといけませんね。
◇◇◇さん……初飛行の前に、最後の最後の最後のお願いを聞いてもらえますか？
……これは、僕が作りかけの高品質な「エカトルの羽根飾りHQ」。
◇◇◇さんには、未完成の「エカトルの羽根飾りHQ」を完成させてほしいのです。
最後に「デズル・クワラン号」の船首に取り付けるために！
材料は用意しました。セズルさんに渡し、最後の製作をお願いします。よろしくお願いします！

セズル・トトロック ： オウ、どうしやがったッァ？　「デズル・クワラン号」初飛行実験までもうすぐだッァ！
あんまりウロチョロすんじゃねぇぞッォ！？
……この部材で「エカトルの羽根飾りHQ」を作れってかッァ？　フッン、あの小僧めッェ……
イクサル族伝統のお守りのコトを、いつの間に知りやがったッァ？
自由に空を飛んでいた、祖先の記憶を忘れぬためッェ、そして、より高く空に舞い上がるためッェ、
気球の船首に羽根飾りのお守りをつけ、験を担ぐッゥ！
小僧め、粋なことをしやがってッェ……。それに、最後の仕事を成し遂げるのは、やはりオメェをおいて他にいねぇからなッァ！
ほらよ、「羽根飾りの材料」を返すぜッェ。オメェほどの腕がありゃ、簡単に作れる代物だろうがよッォ、
これが本当に最後の仕事だッァ、手ぇ抜くなよッォ！
いいかッァ？　チャッチャと作って、小僧に渡してッェ、最終点検が終わるまでにッィ、船首に付けちまえッェ！

タタラム ： ◇◇◇さん……　「エカトルの羽根飾りHQ」は、できましたか？
ありがとうございます……◇◇◇さん……。僕も……これで覚悟ができました。
「デズル・クワラン号」に命を預け、夢に挑む覚悟が……。
最終点検がようやく終わりそうです。下がって待っていてください。「デズル・クワラン号」初飛行実験、いよいよです……！

セズル・トトロック ： よおっしッィ！！　準備万端だッァ！！　オメェらッァア！！　気合いいれろッォオォ！！
ジジイの尻に火ぃつけて、「アヤトラン」にブッ飛ばすぞッォ！！
いっくぜッェ！！　青燐機関ッン、始動ッォ！！

学究のタゼル・メイェアン ： 青燐ガス、気嚢充填完了ッォ！

匠人のドゥザル・メイェアン ： 機関燃料ッォ、問題ナシッィ！

副長のジェズル・アファタン ： 上空の気温、気圧……ともに条件付きでよしッィ！

タタラム ： 青燐機関の正常動作を確認。各種計器に異常ナシ。エーテル翼、展開！　機関、解放！

セズル・トトロック ： よしッィ！　係留索、全切り離しッィ！　解き放てエエエエッ！！

タタラム ： 「デズル・クワラン号」発進っ！！

計図のボゾル・エドゥアン　：　と、飛んだッァ！！

セズル・トトロック　：　高度が……足りねえッェ……！？　どうしたッァ！？

タタバル　：　「黒魔女の羽衣」だと……！？　よりによって……こんなときに……！
樹冠付近のエーテル濃度差が生み出す乱気流！　多くの飛空艇乗りの命を奪ってきた、黒衣森特有の魔の気象現象だ……！
耐えろ……タタラム！　乗り越えて……風を掴むんだっ！！

タタラム　：　トリム調整、エーテル翼最大稼働！　第一、第三バラスト……放出っ！！
くっ……！　か、舵が……効かない……ッ！！　どうした、デズル・クワラン号！
見せてみろっ！　僕たちの「夢」は、そんな程度か！？
飛べっ！　いや……飛ぶっ！！　飛んでみせるううううっ！！

飛空社の社員たち　：　飛べっ……！

エカトル空力団団員たち　：　飛べッェ……！！

セズル・トトロック　：　飛べえええええええッェ！！

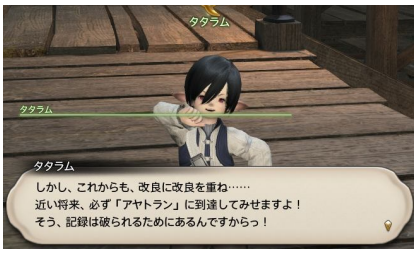
隠密のツザル・トルタン　：　こちら、クルザスのナタラン観測地点ッン！　「デズル・クワラン号」を目視確認ッン……！
高度……5000ヤルムッゥ！　目標高度に到達ッゥ……！
「我ガ翼ハ、星ト成リキ」ッィ！　繰り返すッゥ……「我ガ翼ハ、星ト成リキ」……！

タタラム　：　◇◇◇さん！　「デズル・クワラン号」初飛行実験は見事成功！　僕も機体も、無事、無傷で生還しましたっ！
今回の飛行実験の目標高度は5000ヤルム。これは、現在のエオルゼアの飛空艇において、驚異的な到達高度。
非公式ですが、新記録です！
しかし、セズルさんたちが目指している、幻の浮遊大陸「アヤトラン」は、はるか雲海の先……
現在の「デズル・クワラン号」では、まだ到達できません。
しかし、これからも、改良に改良を重ね……　近い将来、必ず「アヤトラン」に到達してみせますよ！
そう、記録は破られるためにあるんですからっ！
……っと、ところで、◇◇◇さん。以前から、ずっと疑問に思っていることがあるのですが、質問してもいいですか？
◇◇◇さんって、そもそも、何の目的で、この「エカトル実験場」に来て、
「エカトル空力団」に協力することになったんですか？(なりゆき)

あっ、目的をすっかり忘れてた！

なぜか……成り行きで……。
ええっ！？　なんですか、それっ！　双蛇党からの依頼で、イクサル族を牽制する任務だったって！？
そ、それはまた……ずいぶんと……横道にそれましたねぇ……。

タタラム　：　だったら、仕事を依頼した双蛇党の士官さんも、◇◇◇さんの行方を心配しているんじゃないですか？
一応、報告してきた方がいいと思いますよ……。



スカーレット少牙士　：　おや？　君は……。おおっ！　確か「工・タッタ監視哨」のイクサル族強襲時に、増援の任務を依頼した冒険者だったな！
すっかり忘れ……い、いや、無事でなによりだった！　任務の遂行、真にご苦労だった！
おかげでイクサル族の襲撃も、最近は鳴りを潜めつつある。
しかし油断はできない……イクサル族は狡猾で残忍。そして何より、「気球」を用いて空から襲い来る奴らは、
我らグリダニアの民にとって、最大の脅威と言っていい。
近い将来、また再び、任務を通達することがあろう。その日に備え、腕が鈍らないよう鍛練に励みたまえ。
……それにしても、君は今まで、森の中でいったい何をしていたのだ？
君の不在の間、グリダニアは何かと騒がしかったぞ。
何でも、かの「ハイウィンド飛空社」の次期社長が、この地で謎の失踪を遂げたとか何とか……。
おや？　この問題はもう解決したんだったかな……？

冒険者の活躍により、「デズル・クワラン号」の
主要部位である、船体の開発が開始されました！
この調子で、完成を目指してがんばりましょう！

冒険者の活躍により、「デズル・クワラン号」の
尾翼機関部分の設計、開発が開始されました！
これからも完成を目指してがんばりましょう！

冒険者の活躍により、「デズル・クワラン号」の
尾翼部分に機関部が接合され、実装が完了しました！
開発は順調です、この調子でがんばりましょう！

冒険者の活躍により、現器による部品開発が可能になり、
「デズル・クワラン号」の飛空艇の心臓部であるエーテル翼と、
青燐機関の開発が開始されました！

冒険者の活躍により、「デズル・クワラン号」の
操縦系統が整備され、ほぼ全ての部位の実装が完了しました。
完成はもう間近……なのですが……。

冒険者の活躍により、「デズル・クワラン号」はほぼ完成。
タタラムの不在で頓挫していた、細かい調整が可能になりました。
夢の実現は、もう目の前……なのですが……。